

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
現代社会と福祉Ⅱ Contemporary Society and Welfare Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業 時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
前期履修科目「現代社会と福祉Ⅰ」で学んだ社会福祉の基礎知識を前提に、社会福祉と関連政策（教育・住宅・労働政策等）組織・福祉サービス供給システム等について理解を深め、現代社会における社会保障・福祉の課題について理解する。				
授業の目標				
①社会保障・福祉と関連政策についての関係性を理解し、説明できるようにする。 ②社会福祉政策の構成要素と機能・役割が理解し、説明できるようにする。 ③社会福祉政策と地方自治体の役割及び現状と課題等が理解し、説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。				
学習の成果（学習成果）				
①社会保障・福祉システムが現代社会において不可欠であることが認識でき、説明することができる。 ②関連政策を学ぶことによって総合行政としての社会福祉の位置付けを明確にすることができる。 ③民間活力の活用等、行政と民間事業との関係を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の進め方の説明			
第2回目	現代社会における福祉領域の意義と考え方			
第3回目	現代社会における福祉制度と福祉政策			
第4回目	福祉の原理をめぐる理論と哲学① 原理と理論			
第5回目	福祉の原理をめぐる理論と哲学② 原理と哲学			
第6回目	福祉政策におけるニーズと資源① ニーズとは			

第7回目	福祉制作におけるニーズと資源② 地域福祉と資源 レポート「ニーズアセスメントについて」第8回の授業日に提出
第8回目	福祉政策の課題① 貧困者の政策課題
第9回目	福祉政策の課題② 高齢者の政策課題
第10回目	福祉政策の課題③ 障害者の政策課題
第11回目	福祉政策の課題④ 児童関連の政策課題
第12回目	福祉政策の論点 自立支援、エンパワーメントなど
第13回目	福祉政策と関連政策 教育、住宅、労働など
第14回目	相談援助活動と福祉政策の関係 対象別及び分野別福祉活動
第15回目	授業のまとめ これからの社会福祉

事前・事後学習 ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。またわからないことは、科目担当者に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。

成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	第8回目の授業において小テストを行う。ほぼすべての授業にリアクションペーパーを行う。このことにより学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えを明確にすることが出来る。
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容 (態度含む)		
その他		

教科書と参考図書
『現代社会と福祉』弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布する。

履修上の留意点・ルール
●実務経験（職種：児童指導員・生活指導員（障害児・者に係わる業務） 職歴：通算6年）
社会福祉士国家試験受験資格取得の為の必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。